

2-O-1

## 大学を中退することの「意味」—学生相談場面から考える

永島 聡

文部科学省（2014）によると 2012 年度の大学中退者数および中退率は、79,311 名、2.65% であり、これらは増加傾向にある。また同年度における大学中退の理由としては、経済的理由（20.4%）、転学（15.4%）、学業不振（14.5%）、就職（13.4%）が上位に来ている（括弧内は中退者の中でそれぞれが占める割合）。ここで一般的に、いかに退学者を出さないようにするか、ということがテーマになってくる。例えば経済的問題に対しては、奨学金や授業料減免制度の充実等による経済的支援が行われ得る。また学業不振に対しては、リメディアル教育や初年次教育等による学力保障的プログラムの整備があろう。

しかし、中退はそれほど忌避すべきことなのか。防止しなければならない病でしかないのか。何らかの肯定的意味合いはないのであろうか。ここで、Frankl.V.E.による思想の枠組み、特に「次元的存在論」「人間観の三つの柱」「価値実現」の観点から、学生相談場面における中退のケースを再考してみる。物事を否定的にのみ捉えることはできない、人間は自由意志のもと意味を掴もうとする存在であること、何かに無意識的に専心する中で結果的に価値は実現されるということ、これらの枠組みから検討すると、当該学生の長い人生の一場面としての中退は、とても意味深いものでもあり得るということを確認できるのである。

2-O-2